

## サンゴリアス ラグビーキャラバンin川越

文◎山野英彦(浦和ラグビースクール)



5月14日(土)、埼玉県川越市の東京国際大学・入間川河川敷ラグビー場で「サンゴリアス ラグビーキャラバンin川越」が開催され、川越、狭山、浦和ラグビースクールの子供達、コーチ、父兄など約300人が参加しました。

同キャラバンでは、サントリー・サンゴリアスから責任者の武田三郎チームディレクターをはじめ藤健太(コ

ーチングリーダー)、尾崎章、東野憲照、林仰、早野貴大、元申騎、上村康太、高谷順二、瀬川貴久、澤木智之、田原耕太郎、北條純一、伊藤俊平、瓜生靖治、平浩二の現役プレーヤーが子供達を指導するため、忙しいスケジュールの合間を縫ってグラウンドへ駆けつけてくれました。キッズドリームプロジェクトのTシャツ、パーカー姿の選手達がユーモアたっぷり自己紹介をした後、ジュニアチーム(中学生)、Aチーム(小学5・6年生)、Bチーム(小学3・4年生)、Cチーム(小学1・2年生)、Dチーム(幼稚園児)に分かれて練習が始まりました。

①相手を抜く②当たり③パス④キック⑤キャッチ——の練習メニューごとに区分されたグラウンドを各チー

ムが移動する形式で行われ、小中学生のハンドダミーへの激しいコンタクトや高いバントのキャッチ、素早いパス回しなど、スキルの高さに現役選手も感嘆の声をあげていました。一方、子供達も憧れの選手から指導を受けるとあって最初は緊張していましたが、時間が経つにつれて選手の笑顔を交えた分かり易いコーチングに、すっかり慣れた様子でC・Dチームではコンタクトバッグをユリカゴ代わりに遊ぶ子や肩車をせがむ子供達が選手を取り囲むなど、この日ばかりは選手達も“近所の優しいお兄ちゃん”として遊び相手になっていただきました。中でも最も人気を集めたのがラインアウトのリフティング。希望者が殺到しましたが、フォワードの選手は黙々と子供達を引き上げ、スローイングされたボールを高い位置でキャッチしたチビッコ選手は大喜びでした。

また、デモンストレーションでは華麗なバックスパスや正確なキックが披露されたほか、ブレースキックやタックルではユーモアたっぷりのパフォーマンスを見せてくれるなど、笑い声が絶えない多彩な演出が印象的でした。9時30分から始まった約2時間のキャラバンも楽しい雰囲気の中、最後の集合写真撮影で閉会し、

参加者にはオリジナルステッカーや記念品がお土産に配られましたが、多くの子供達がジャージやバッグにサインをもらい、スパイクをゲットしたジュニアもいるとか。

日ごろ、テレビの画面や競技場のスタンドから姿を見ることしかできない選手と触れ合うことで、きっと今まで以上に子供達はラグビーが好きになったことでしょう。いつの日か、今回参加した子供達の中からサンゴリアスの選手としてコーチを務め、さらにジャパンとして活躍する選手が現れるのも夢ではないと思っています。こうしたキャラバンがラグビー人口の増加に寄与するものと確信すると同時に、地道な社会貢献活動を継続している企業としてのサントリーと選手の皆さんに改めて感謝いたします。

